

議 事 録

会議名	令和4年度第1回豊山町学校給食アレルギー対応検討委員会	
年月日	令和5年3月28日(火)	
時間	午後3時～午後4時15分	
出席者	委員	委員長 上原 正子(愛知みずほ短期大学) 副委員長 野崎 千佳(N.キッズファミリークリニック) 委員 篠田 弘男(豊山中学校長) 委員 近藤 睦(豊山中学校栄養教諭) 委員 伊藤 和代(豊山小学校養護教諭) 委員 伊藤 貴範(西春日井広域事務組合消防本部)
	事務局職員	教育長 北川 昌宏 給食センター所長 山下 美幸 学校教育G長 菊地 智行 学校教育G員 川原 美香
欠席者	委員 木野 太一	
協議事項	1 教育長挨拶 2 委嘱状交付 3 委員長挨拶 4 議題 (1) アレルギー除去食提供の実施状況について (2) 食物アレルギーひやりはっと事例について (3) 意見交換 5 その他	
議事内容		
【1 教育長挨拶】 【2 委嘱状交付】 【3 委員長・副委員長選出】 【4 委員長挨拶】 【5 議題】 (1) アレルギー除去食提供の実施状況について		
事務局	(資料に基づき説明)	
委員	昨年度の会議で、今年度からアレルギー除去食の器の移し替えが可能となる話を聞いたと思うが、問題なく行えているか。	
事務局	昨年度、アレルギー除去食用のポットが深くて食べにくい	

	という意見があったため、今年度から移し替え用の器を用意した。他の児童生徒と混ざらないように、色の違う容器を用意したが、学校や給食センターからは問題なく提供できていると聞いている。
委員	学校においても、問題なく提供できている。
委員長	令和4年度のアレルギー対応者は、卵や乳以外にどのようなアレルギーが多いのか。
事務局	エビやカニ、ナッツや小麦等アレルギーがある子がいる。
委員長	1年生で、卵と乳以外の子はいるか。
事務局	山芋や長芋、エビやカニアレルギーがある子がいる。ごまやくるみにアレルギーがある子もいる。
委員	給食では、ごまはよく使われるが、エビやカニが出ることは少ない。
委員長	中学生で8名アレルギーの生徒がいるが、症状の重い子もいるのか。
委員	現状において、重いアレルギーの子はいない。 過去の経験だが、グレープフルーツのエキスを使っていることでアレルギーになった子がいた。当時の給食センターの栄養教諭が対応したが、近年アレルギーのある子どもが増えてきているように感じる。
委員	りんご等の果物のエキスが含まれるものを、学校給食で使うこともある。
委員長	様々な食品で、アレルギーのある子どもが増えてきているように感じるがどうか。
委員	ナッツやくるみが増えてきている。卵や牛乳は、小学生くらいになると、食べられる子どもが増える。
委員長	給食でくるみは出るか。
委員	給食では出ない。
委員	山芋はどうか。
委員	山芋は、それ自体で使用することはないが、エキスが含まれることがある。
委員長	除去食の提供が月1回ずつであるが、理由はあるか。また、提供する際の課題はあるか。
委員	特に理由があるわけではない。

	かきたま汁や高野豆腐の卵とじ等を提供しているが、慣れてきたこともあり、問題なく提供できている。
委員長	乳の提供が1回であるが、理由はあるか。
委員	シチューは、もともと豆乳を使って作っている。牛乳を使って作る献立が少ないため、1回になってしまった。
委員	卵や乳の除去食以外の人は、おかずをどうしているのか。
委員	家から代わりのおかずを持ってきている。
委員長	中学生になって、治っていく例はあるか。
委員	はっきりとはわからないが、宿泊時の事前検査でアレルギーを持っていることがわかることがある。
委員長	重いアレルギーの人もいるか。
委員	少量で吐いてしまう子もいる。小学生になって試そうとしても、嫌がって食べようとしないうえ、試せないことがある。食べられそうであっても試せないから、引き続き除去で対応するしかない。
委員長	学校生活管理指導表の記載が保険適用になったが、書きに来る人は増えたか。
委員	特に増えた印象はない。
(2) 食物アレルギーのひやりはと事例について	
事務局	(資料に基づき説明)
委員長	豊山町では、アレルギーの含まれる食材はどのように確認しているか。
委員	まずは給食センターで、成分の記載された詳細献立表を作成して学校にお渡しする。
委員	学校は、受け取った献立表を保護者の方にお渡しし、保護者は献立表の内容をチェックして、学校に提出する。提出された献立表は学校でも確認する。
委員長	学校での確認は、誰が行うのか。
委員	担任と養護教諭が行う。
委員長	確認欄はあるか。
委員	確認欄には、保護者と担任のチェック欄がある。養護教諭の欄は無いが、書類を全て養護教諭がもらうため、そのときにチェックする。
委員長	詳細献立表のチェックの際に、アレルギーがある食材を保護者の方が見落とす場合もあると思うが、給食センターでも

	確認をするか。
委員	給食センターには、除去食対応の子どもの書類が届くため確認をしている。卵と乳以外にアレルギーがある子どもは、学校で確認をしている。
委員長	<p>保護者が見落としとしてしまっても、どこかで二重チェックができるようにすることが大切。難しいやり方でなく、正確に判断できるような方法を、考えていけるとよい。</p> <p>1月にも愛知県で事故があった。大事には至らなかったが、加工食品の表示を見落とししてしまったため、誤って食べしまったというもの。複数でチェックすることが大切。</p> <p>行事食で給食業者が変わるという事例や、製品のリニューアルの事例を見ると、「いつもの物」という思い込みで判断してしまうと危険だと思う。チェック体制を考える必要がある。</p> <p>豊山町は、業者を入札で決めているか。</p>
事務局	入札で決めている。栄養教諭が試食する。
委員	<p>何度チェックしてもミスは起こり得る。大事には至らなかったが、緊急連絡が常にできるような体制づくりや、事故が起きたときに速やかに対応できることが大切だと思う。</p> <p>学校でも年度初めに講習会を行っている。</p>
委員	<p>エピペンのアナフィラキシーショックは、我々もシビアに考えている。先生方からも、学校で講習をやってほしいという依頼を受けている。症状の進行は一気に来るため、躊躇なくエピペンを打ってほしい。</p> <p>もう一つ知ってもらいたいことがある。摂取してすぐは大丈夫でも、その後に運動をすると血流が良くなり、一気に症状が現れる「運動誘発性アレルギー」というものがある。アレルギーを食べたときは、一時的な観察ではなく、長い時間をかけて観察をしてもらいたい。</p> <p>また、救急車を呼ぶ際には、学校生活管理指導表と給食の成分表を用意してほしい。救急隊がスムーズに動くことができる。</p>
委員長	事務局から、学校に対して伝えてほしい。
(3) 意見交換	
委員	本校では校内のマニュアルで、アレルギー対応の必要がある子どもに対して、誤食を防ぐためにおかわりを禁止してい

	<p>る。その代わり、担任と一緒に一番最初によそい、たくさん食べたい子には、最初に多めに盛り付けることで対応してきた。</p> <p>しかし、今年度におかわり禁止がネックになってアレルギー対応をやめたいという子どもがいて困った。どのようにするのが良いか、意見を聞きたい。</p>
委員長	なぜ、おかわりを禁止しているのか。
委員	他の学校の事例だが、給食でおかわりをしたことによって、アナフィラキシーで亡くなってしまった事故があった。本校では、その事故を受けて、おかわりを禁止するようになった。校内マニュアルで独自に定めている。
委員長	危険を回避するために、そういう対応を決めたのだと思うが、どこまで学校で対応できるのかを、学校の中で決めるのが良いのではないか。
委員	今考えているのは、低学年のうちはおかわり禁止にして、自分でも判断できるようになった高学年の子は、多少ゆるめるという方法。ただ、どのように線引きをするかが悩ましい。
委員	献立をチェックして、アレルギーが含まれるおかずがある日はおかわりできないが、含まれないおかずの日は、おかわりができるようにするのはどうか。先生も保護者も全員が納得すれば良いと思う。
委員長	どこまで学校で対応できるかだと思う。委員が言われたように、低学年が難しそうであれば、高学年から対応する方法もある。ただ、先生や保護者の方の理解が必要になると思う。
【4 その他】	
	特になし